

中国コメ生産・消費の推移

～拡大する短粒種市場

社団法人JCI総研は7月18日「中国の米生産と消費動向について」と題したレポートを公にした。当レポートは近年中国において短粒種（ジャポニカ種）の生産と消費量が大きく伸びていること、これに伴い中国国内における短粒種の需給が、国際市場に影響を及ぼす可能性を示唆している。ただ、中国の現在の増産トレンドがこのまま続いていくのだろうか。現在の生産・消費動向と今後の見通しをまとめた。

減少する長粒種の耕地

1980年には中国における全生産量の9割が長粒種（インディカ種）であった。しかし長粒種の伝統的産地である広東、浙江、福建省などは、改革開放後の工業化・都市化に伴う農地転用などによって生産量を大きく減らしている。一方、短粒種の主産地である黒竜江、遼寧、吉林の東北三省は生産量を増やしているのだ。中国全体の米作付面積は2003年以降、政府の施策も相まって概ね一貫して増加しており、作付増分はほぼ短粒種によるものである。これも中国における短粒種のシェアが近年更に強まっており、2011年における短粒種の国内生産量に占めるシェアは30%を超え、1980年当時のほぼ3倍になっている。

短粒種の需要拡大

短粒種の作付増は国内消費者のニーズが高まったためだ。経済成長に伴う生活水準の向上により、良食味である短粒種への嗜好が強まっている。従来長粒種や小麦が消費されていた地域が短粒種を消費するようになっており、これは米全体の消費全体を押し上げると共に、短粒種のシェアを増加させる理由のひとつになっている。また2008年より2年間に渡り実施された遠隔地から消費地への輸送に対し実施された助成が、事実上短粒種の生産補助として機能したことも一因としてあげられるだろう。

今後の展望

現在中国における消費と生産の全体量はほぼ均衡に近づいているが、増加する消費量に対しては、今後順調に短粒種の生産面積が拡大するのだろうか。生産量が拡大している東北地方の懸念は農業用水の不足だ。近年降水量が減少しており、天水のみでは必要とする農業用水がまかない切れなため、地下水を使用している地域も出現している。また、水稲作付地域でも収益性の高い作物への転換が進むことも考えられる。将来生産量が頭打ちとなり、中国が短粒種の輸入国となる可能性も考えて推移を見て行く必要があるだろう。

短粒種・長粒種の生産量増減

1) 長粒種がメインの産地 (単位: 万 ha)

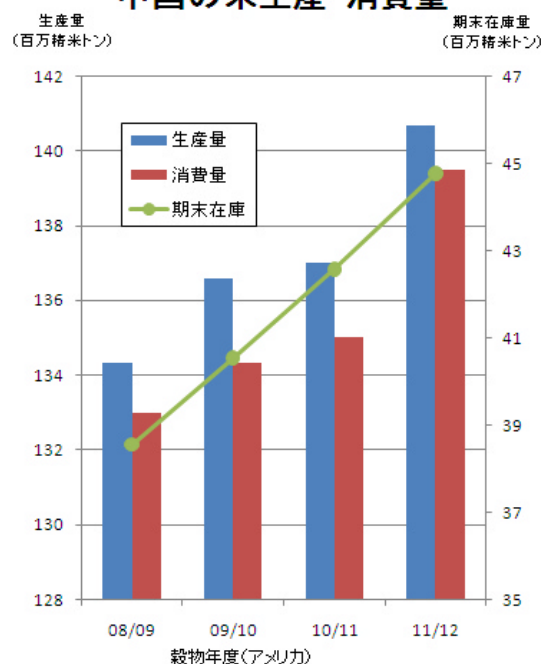
	2001年	2010年	増減率
広東	2,467.4	1,952.7	-21%
浙江	1,598.0	923.2	-42%
福建	1,222.3	854.8	-30%

2) 短粒種がメインの産地

	2001年	2010年	増減率
黒竜江	1,605.9	2,768.8	72%
吉林	584.8	673.5	15%
遼寧	489.7	677.5	38%

出典データ:「中国統計年鑑」

中国の米生産・消費量



出典: foreign Agricultural Service, Official USDA Estimates

2012 G A P 普及大賞 3つの優良事例が受賞

7月18日に都内で開催されたシンポジウム「GAPJapan2012 - 日本のGAPの今が分かる」において、3つのGAP普及の優良事例が本年度のGAP普及大賞を受賞した。

GAP普及大賞は今年1年間で最もGAPの普及に貢献した取り組み事例を表彰するもので、NPO法人日本GAP協会が主催。第2回目となる今回は菱肥会の会員でもある北海道の(株)日の丸産業社のほか、北海道・上川農業改良普及センターと担当普及員・指導員、(株)イトーヨーカ堂と(株)セブンファームが受賞した。



他の受賞者と並ぶ日の丸産業社 飯田社長（左端）

(株)日の丸産業社の場合、肥料商がGAP導入を通じて生産者を応援し、地域農業の発展に貢献している点が高く評価されたもの。

農水省もフェイスブックで情報発信 いいね！

農林水産省経営局がフェイスブックで情報発信を始めたのはご存じだろうか。興味のある方は農業経営新時代ネットワーク（URL：<https://www.facebook.com/nogyokeiei>）を訪問して欲しい。ホームページはフェイスブックのアカウント登録をしなくても閲覧できるようになっている。内容は施策や税制、技術に加え、先進的な農業経営事例などを分かりやすく発信したものだ。経営局スタッフの生の声に触れることにより行政の取り組みをリアルタイムに知ることが出来る。



フェイスブックは現在全世界に9億人のユーザーを持つと言われる世界最大の交流サイト（SNS）に急成長、サイトのアクセス数がGoogleを抜くなど注目の情報交換ツールとなっている。

経営局のフェイスブックの立ち上げは今年の5月28日。まだ立ち上げから日がなく、今後の発信内容に期待する状況だ。既に農水省に先行して、外務省・文部科学省・財務省・防衛省などの中央省庁が相次いでフェイスブックを導入し、特色あるページでそれぞれの仕事内容を発信している。中央省庁の仕事が身近に感じられるようになったのは歓迎したい。

MAC 掲示板～人事異動～

日付	氏名	新	前
8/1	石橋理恵子	福岡支店復帰	エムシー・ファーマティコム出向

ロンドンオリンピックでは、日本人選手が大活躍ですね。オリンピックが好きな私は、少々寝不足気味です。悲喜交々ですが、順位やメダルの色ではなく、今持っている最大限の力が発揮できたかどうか、笑って終われる鍵なんでしょうね。さて、次号は当紙も夏休みを頂きます。次回発行は9月12日になります。残暑厳しき折り、体調には十分お気をつけ下さい。

編集事務局：小田、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>